

群馬県利根沼田地方の国有林

利根沼田森林管理署が所在する群馬県利根沼田地方は群馬県の北東部に位置し、北、東、西は新潟県、福島県、栃木県に、南は群馬県渋川市などと接しており、沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町の1市1町3村で構成されています。

区域面積は約18万haで、中央を利根川本流が南北に流れ、利根川およびその支流の赤谷川、片品川等によって形成された盆地と武尊山（ほたかやま）や赤城山の山麓に刻まれた雄大な河岸段丘が特徴的な地形を示しており（テレビ番組で日本一の河岸段丘として取り上げられたことがあります）、果樹、野菜、稲作そしてこんにゃく芋の栽培が盛んな土地です。

産業別生産額ではサービス業の割合が群馬県内の他地域と比べて高くなっていますが、製造品出荷額に占める木材の割合が高く、相対的に林業・木材産業の重要度が高い地域といえます。

この利根沼田地方に所在する国有林の分布は主に新潟、栃木県境付近の奥地山岳地帯および武尊山山麓や赤城山北麓が中心となっています。（図1）

国有林面積は約10万haで、奥地山岳地帯が大きな面積を占めることから、ブナなどからなる原生的な天然林や稜線の低木地、岩石地が多いものの、比較的里に近い地域を中心にスギやカラマツを中心とした人工林が広がり人工林率は約30%（全国平均41%）となっています。

なお、国有林外になりますが北東部には「尾瀬」があり利根沼田地方からのアクセスが主要なルートとなっています。

一方、これらの国有林には、日本百名山である谷川岳、平ヶ岳、巻機山（新潟県境）、日光白根山、皇海山（栃木県境）、赤城山、武尊山、至仏山（群馬県内）もあり、夏期の登山を楽しむ場として親しまれているほか、標高が高く気温が低いことを利用した良好な雪質を誇るスキー・スノボなどのウィンターレジャーのエリアとして利用されています。

このような自然的・社会的条件の中、利根沼田森林管理署は、林業の成長産業化に向けた取組や、治山事業など国民の生命財産を守る取組、豊かな森林生態系の保全やそこに生息・生育する希少野生動植物の保護といった生物多様性保全の取組、国有林を活用した地域振興を目指し、国有林の管理・経営を行っています。



図1 利根沼田の国有林（濃い緑）の分布

豊かな水や国土を守る取組

利根川の最も上流に位置する利根沼田地方は、関東地方の水の供給源の一つです。特に最上流域に広く分布する国有林が豊かであることは、水の安定供給に大きな役割を果たしていると考えております。

ブナなどの天然林はもちろん、きちんと手入れした人工林においてこのような機能をしっかり発揮させるため、利根沼田管理署では人工林の手入れを計画的に行っています。

令和元年度中には、混み合った植栽木を間引いて林内を明るくすることにより森林を健全にする「間伐」を約 200ha、植栽木の成長を阻害する雑木などを処理する「除伐」や「下刈」等を約 200ha 実施しています。

また、地域の皆さんの安心・安全を守るため、災害の危険がある斜面の災害予防や、大雨などにより崩れた山を修復する「治山事業」を積極的に行っており、令和元年度には、溪流の勾配を緩和し、溪流周辺の山腹斜面を安定化するための治山堰堤（治山ダム）1基、がらがらと崩れ続ける傾斜地を丸太などで復旧する山腹工を2箇所、落石防止の山腹工を2箇所行いました。

工事にあたっては、堰堤に魚道を設置するなど生物多様性保全に配慮するとともに、景観への配慮と木材の利用を拡大していくため、できる限り木材を利用しています。（写真1）



写真1 令和元年度施工の山腹工

木材の利用と地域林業の振興

利根沼田森林管理署にあるスギやカラマツ、ヒノキなどの人工林は約2万8千haで、その半分以上が50年生以上の森林となっており、木材として利用可能な時期が到来しています。私たちはこれらの森林の手入れに伴って生産される木材を市場に供給するとともに、森林を手入れする活動を通じて地元雇用貢献するなど、地域の振興を図る取組を進めており、令和元年度は立ち木の状態の木を2万3千m³程度、丸太にしたものを2万m³程度、民間の事業者へ販売しています。

これらの事業実施にあたっては、今、林業の課題となっている効率化・低コスト化・省力化に最大限取り組んでいます。

なお、令和元年度においては成長が早く林業の収益性の向上に寄与する「早生樹」を群馬県林業試験場と共同で試験植栽し、地元の方々と現地で意見交換（現地検討会）しました。

植栽した樹種は「コウヨウザン」で、成長が早いほか、木材としての強度が高く、伐採したあとの更新（伐採後に後継となる森林



写真2 コウヨウザン試験植栽現地検討会の現地検討会

を仕立てていくこと)も容易であるなど、優れた特性を持つものとして期待されているものです。

コウヨウザンはこれまで西日本や東日本の太平洋側などで育てられてきた事例はありますが群馬県での植栽は初めての事例といわれています。冷涼な気候であるこの利根沼田地方で成長が良好であれば、地域の林業にとって有力な選択肢の一つとなると考えています。(写真2)。

また、国有林の中だけでなく県や市町村などの皆さんと連携し、地域全体で森林資源を効率的に活用して林業を発展させ、地域振興につなげていくことが重要だと考えています。

このため、前述の現地検討会のほかに、国有林と接している民有林の皆さんと森林管理署とで「森林整備推進協定」を締結する取組を進めています。これは、林道等の作業用道路を共同で利用して伐った木材を運ぶコストを削減し、同時期に行う作業箇所をなるべく集めて作業用機械の運搬コストなどを削減することで、地域の林業を活発にしようというもので、利根沼田署においてはこれまで「川場村溝又入地区森林整備推進協定」を締結しているところです。

生物多様性の保全

利根沼田の国有林はブナをはじめとした豊かな森林が広がっており、多くの動植物の生育・生息場としてしても重要で、これらを保護する取組も進めています。



写真3 赤谷の森のイヌワシ

これに関連し当署管内で取り組んでいることで全国的に注目されている取組としてあげられるのは、「赤谷プロジェクト」です。

西部のみなかみ町新治地区の国有林約1万ha(赤谷の森)で「生物多様性の復元」「持続的な地域づくり」を実現するため、地域社会(地域協議会)、行政機関(関東森林管理局)、NGO/NPO(公益財団法人日本自然保護協会)が中心となって持続的な取組を行っているものです。

詳しくは赤谷森林ふれあい推進センターのウェブページ等を参照頂きたいのですが、利根沼田森林管理署も事業実施に当たって積極的に参加・協力しているところです。

(赤谷森林ふれあい推進センターhttp://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html)

利根沼田地方の山々

利根沼田地方の国有林内には、登山の盛んな谷川連峰や赤城山、皇海山、信仰の山である武尊山、地域の山として親しまれている大峰山・吾妻耶山、三峯山、子持山など、楽しめる山がたくさんあります。

どれもいい山ですが、なんといっても谷川岳(標高1,977m)が有名ですので少し紹介します。

谷川岳はみなかみ町土合をスタート地点にしたさまざまなルートがあり、途中でロープウェイを利用して山頂に至る比較的手軽なコースから、日本3大急登とも呼ばれる西黒尾根コース、馬蹄形と呼ばれる稜線を堪能できるコースなど、なんど登っても飽きない魅力があります。

標高はそれほど高くありませんが、冬季の膨大な積雪によって形成された稜線部のササ原や山麓のブナ林など、多様な植生が見られ、ロープウェイを利用すれば標準タイムで片道2時間30分で山頂の大展望を楽しめます。

スタート地点である土合へは自動車のほかに鉄道、バスもあり、アクセスも便利ですし、山頂へのピストン、馬蹄形や主脈の縦走、新潟側への峰越えなど、時間や技量、季節などに応じた多様な楽しみ方ができるのが魅力となっていますので、ぜひ遊びに来てください。



写真4 谷川連峰の稜線

最後になりますが、私たちは上記のように木材生産や環境保全など多彩な機能を持つ国有林を、地域の皆さんを始め多くの関係者のご意見を伺いながら適切に管理することによって、少しでも皆さんのお役に立ちたいと考えております。

そのためにも様々な機会を通じて皆さんと意見交換していきたいと考えており、改めて皆様のご理解・ご協力をお願いし、この小文を終わりたいと思います。